



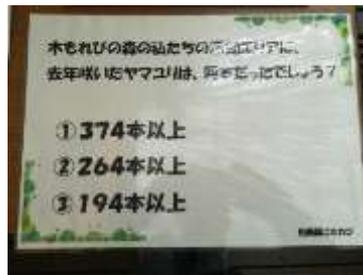
日時：2019年6月30日（日）10：30～16：00

場所：橋本ミウイ 1F・5F・8F

出展者は、40社。多彩な関係者が出展していた。右のピンクのバラのコサージュは、「生分解性ポリ乳酸繊維布」を使っている。費用は今までよりは高くなるが、分解して土に帰り地球に優しいプラスチック。生活しやすい環境とはどんな状態？私たち「こもれび」は、森を健康な状態にすることによって、維持したいと考え実行しています。私たちが出したクイズは？



2016年6月には、こもれびの活動エリアで、373本。2017年には、367本。2018年には、194本。開花したヤマユリの推移がどのような原因かは分からない。2019年は、7月1日に調査する予定だったが、雨天のため8日に延期になった。皆さん、私たちのできる範囲で、素敵な環境を作りましょう！という思いを強くした1日でした。



多くの方に訪問していただきました。ありがとうございました。  
ホームページ➡相模原こもれび

 sagamiharakomorebi



ヤマユリ（山百合、学名：Lilium auratum）

草丈は1-1.5m。花期は7-8月頃<sup>[1]</sup>。花は、花弁が外に弧を描きながら広がって、1-10個程度を咲かせる。その大きさは直径20cm以上でユリ科の中でも最大級であり、その重みで全体が傾くほどである。花の香りは日本自生の花の中では例外的ともいえるほど、甘く濃厚でとても強い。発芽から開花までには少なくとも5年以上かかり、また株が古いほど多くの花をつける。



風貌が豪華で華麗であることから、『ユリの王様』と呼ばれる。（ウィキペディアより）2018年7月18日撮影：木もれびの森にて